



## Press Release

2023年3月15日

室内音響最適化ソリューション「Dirac Live」への対応や  
スピーカーレイアウトの柔軟性向上、インターフェースの改善などを含む  
AV アンプのファームウェア・アップデートを実施

マランツは、2023年3月15日に対象のAVアンプに対する最新のファームウェアを公開しましたことをお知らせいたします。オンラインでファームウェア・アップデートを行うことにより、室内音響最適化ソリューション「Dirac Live」への対応や、Dolby Atmos や Auro-3D を再生する際のスピーカーレイアウトの柔軟性の向上、スピーカーのマニュアルセットアップのインターフェースの改善などが適用されます。

※ アップデートの内容は製品ごとに異なります。

※ ファームウェア・アップデートを行うにはインターネット接続環境が必要です。

※ Dirac Live の機能を使用するには、有料のライセンスおよび対応する測定用マイクの購入が必要です。

個別の製品のアップデート内容については下記をご覧ください。

## 1. Dirac Live に対応



### 対象製品

AV プリアンプ : AV 10

AV サラウンドレシーバー : CINEMA 40、CINEMA 50

AV アンプの上級機がファームウェア・アップデートにより、室内音響最適化ソリューション「Dirac Live」に対応しました。対象製品のファームウェアをアップデートして、Dirac のウェブサイトから有料のライセンスをご購入いただくと、Dirac Live の機能が使用可能になります。20Hz から 500Hz までの測定および補正に対応する「Dirac Live Room Correction Limited Bandwidth」および、20Hz から 20kHz までに対応する「Dirac Live Room Correction Full Bandwidth」をご利用いただけます。Dirac Live の測定では、ネットワークに接続された Windows PC / Mac と Dirac 推奨の測定用 USB マイクを使用するため、測定用のマイクを AV アンプに接続する必要はなく、AV アンプが機材室などの視聴位置から離れた場所にあっても測定を行うことができます。PC が別室にある場合は、AV アンプに測定用 USB マイクを接続して測定を行うこともできます。

※ Dirac Live の機能を使用するには、有料のライセンスおよび対応する測定用マイクの購入が必要です。

Dirac Live Room Correction Limited Bandwidth : 259 ドル

Dirac Live Room Correction Full Bandwidth : 349 ドル

(上記の価格は 2023 年 3 月 15 日現在のものであり、Dirac によって変更されることがあります。)

※ Dirac Live のライセンス購入については Dirac のウェブサイトをご覧ください。

[www.dirac.com/marantz/](http://www.dirac.com/marantz/)

※ Dirac Live の使用方法についてはこちらの取扱説明書をご覧ください。

<https://manuals.marantz.com/DiracLive/ALL/JA/index.php>

※ Dirac Live と Audyssey MultEQ による補正を同時に使用することはできませんが、それぞれの設定を「スピーカーブリセット」に登録して切り替えて使用することができます。

### Dirac Live について

サウンドシステムのクオリティの大部分は、スピーカーやアンプの品質など、コンポーネントの品質によって決定されます。一方で、サウンドシステムが設置されている部屋もサウンドクオリティに対して重要な役割を担っているという事実は案外見逃されがちです。

Dirac Live ルームコレクション・ソフトウェアは、独自のアプローチでお部屋の音響特性を分析し、システムのサウンドを補正することで、可能な限り最高の結果をご提供します。Dirac Live ルームコレクションは、最先端の特許取得済みアルゴリズムによって、部屋の特徴がサウンドに与える影響を解析。デジタル処理によってその影響を軽減し、スピーカーが持つ本来の性能を引き出します。そうすることで、他の方法では実現不可能な、リスニング時のスイートスポットの拡大、正確なステージング、透明感、声の明瞭さ、そして深く引き締まった低音を実現します。

## 2. トップスピーカーを使用した Auro-3D フォーマットの再生に対応

### 対象モデル

AV プリアンプ：AV 10、AV8805A、AV8805

AV サラウンドレシーバー：CINEMA 40、CINEMA 50、SR8015

従来対象の製品では、Auro-3D フォーマットを再生するには壁面の上部に設置するフロントハイト、サラウンドハイトおよび試聴位置の真上に設置するトップサラウンドスピーカーが必要でしたが、この度のファームウェア・アップデートにより、天井に設置したトップフロント、トップミドル、トップリアスピーカーを用いた Auro-3D の再生が可能になりました。そのため、Dolby Atmos の推奨スピーカーレイアウトのまま、スピーカーを追加することなしに Auro-3D のコンテンツを楽しむことができます。

※ トップフロントおよびトップリアスピーカーは、フロントハイトおよびサラウンドハイトスピーカーのサウンドを再生します。

※ センターハイトスピーカーが設置されていない場合には、センターハイトスピーカーのサウンドはトップフロントスピーカーから出力されます。

※ トップミドルスピーカーは、トップサラウンドスピーカーのサウンドを再生します。

**AURO** 3D<sup>®</sup>  
AUDIO



トップフロント、トップミドル、トップリアスピーカーによる Auro-3D 再生に対応

### 3. サラウンドハイトスピーカーを使用した Dolby Atmos フォーマットの再生に対応

#### 対象モデル

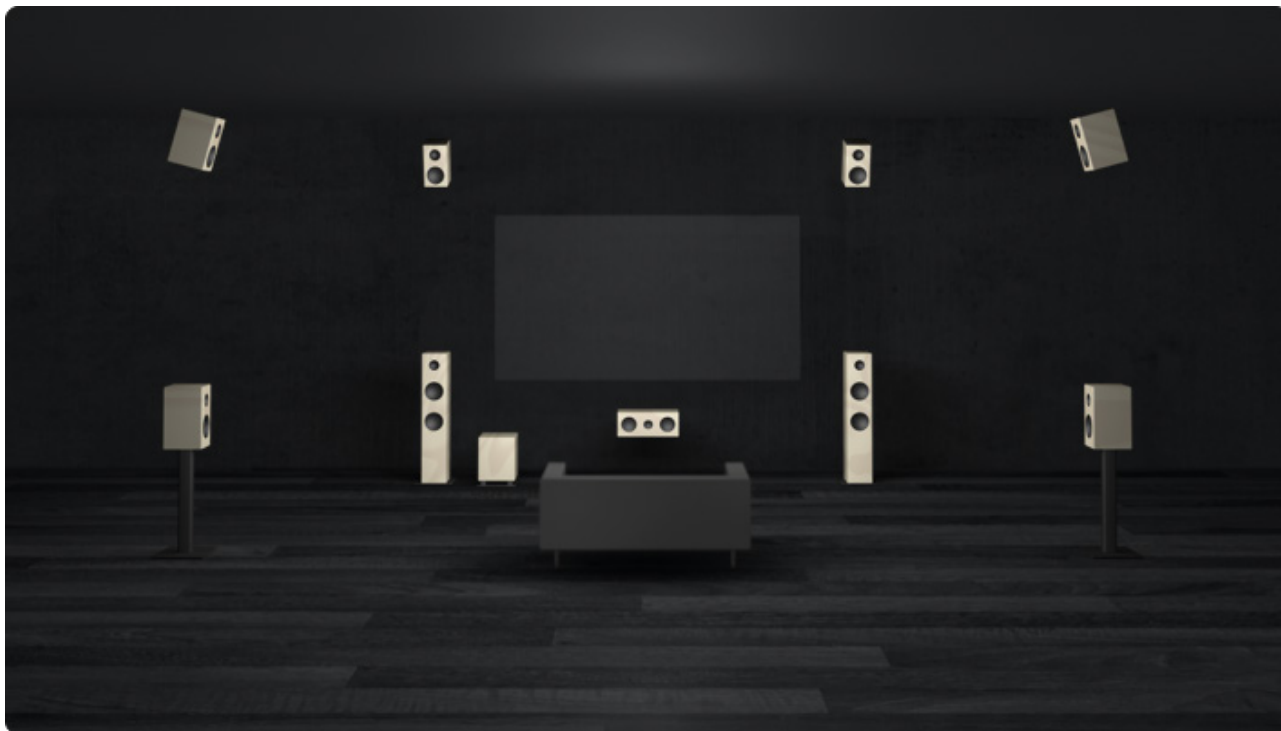
AV プリアンプ：AV 10、AV8805A、AV8805

AV サラウンドレシーバー：CINEMA 40、CINEMA 50、SR8015

従来対象の製品では、Dolby Atmos フォーマットを再生する際には視聴位置の左右の壁面上部に設置するサラウンドハイトスピーカーは使用できませんでしたが、この度のファームウェア・アップデートにより、サラウンドハイトスピーカーを用いた Dolby Atmos の再生が可能になりました。そのため、Auro-3D の推奨スピーカーレイアウトのまま、スピーカーを追加することなしに Dolby Atmos のコンテンツを楽しむことができます。

※ サラウンドハイトスピーカーは、リアハイトスピーカーのサウンドを再生します。

## Dolby Atmos



サラウンドハイトスピーカーを使った Dolby Atmos 再生に対応

## 4. マニュアルスピーカーセットアップのインターフェースを改善

### 対象モデル

AV プリアンプ：AV 10

AV サラウンドレシーバー：CINEMA 40、CINEMA 50、CINEMA 70s

手動でのスピーカー設定や自動設定の内容の変更を行う「マニュアルセットアップ」のインターフェースおよび設定項目の改善を行いました。

- ・ 「アンプの割り当て」、「スピーカー構成」、「スピーカーの接続」の設定項目を 1 画面に集約し、複数の画面を行き来することなく設定ができるようになりました。
- ・ 「スピーカーの構成」と「クロスオーバー周波数」の設定を統合しました。スピーカーの「大」、「小」の設定を廃止し、サブウーファーとのクロスオーバー周波数の設定のみを行うように変更しました。
- ・ 「LFE の設定」や「フロントスピーカーの A/B 切り替え」、「2 チャンネル再生の設定」など、使用頻度の低い項目を「アドバンス設定」に集約しました。

※使用可能な設定項目は製品によって異なります。



「アンプの割り当て」、「スピーカー構成」、「スピーカーの接続」の設定項目を 1 画面に集約

## 5. CINEMA 70s に「プリアンプモード」を追加

### 対象モデル

AV サラウンドレシーバー：CINEMA 70s

CINEMA 70s の「アンプの割り当て」に「プリアンプモード」の設定を追加しました。プリアンプモードに設定すると、CINEMA 70s は、7ch すべての内蔵パワーアンプの動作を停止して、プリアウトからの出力のみを行います。



CINEMA 70s の「アンプの割り当て」に「プリアンプモード」を追加

## 6. プリメインアンプへの「電源オン/オフ」コマンドの送信に対応

### 対象モデル

AV プリアンプ：AV 10

AV サラウンドレシーバー：CINEMA 40、CINEMA 50、CINEMA 70s

従来対象の製品では、リモートコントロールケーブルで接続されたマランツのパワーアンプに対してのみ「電源オン」および「電源オフ」のコマンドを送信していましたが、この度のファームウェア・アップデートにより、プリメインアンプに対しても同様のコマンドを送信することが可能になりました。これにより「MODEL 30」などのプリメインアンプをパワーアンプとして使用している際に個別に電源オン/オフの操作を行う必要がなくなりました。

## 製品情報

AV プリアンプ：AV 10

<https://www.marantz.jp/ja-jp/shop/avamplifier/av10>

AV プリアンプ：AV8805A

<https://www.marantz.jp/ja-jp/shop/avamplifier/av8805a>

AV プリアンプ：AV8805（生産完了モデル）

<https://www.marantz.jp/ja-jp/shop/avamplifier/av8805?status=discontinue>

AV サラウンドレシーバー：CINEMA 40

<https://www.marantz.jp/ja-jp/shop/avamplifier/cinema40>

AV サラウンドレシーバー：CINEMA 50

<https://www.marantz.jp/ja-jp/shop/avamplifier/cinema50>

AV サラウンドレシーバー：CINEMA 70s

<https://www.marantz.jp/ja-jp/shop/avamplifier/cinema70s>

AV サラウンドレシーバー：SR8015（生産完了モデル）

<https://www.marantz.jp/ja-jp/shop/avamplifier/sr8015?status=discontinue>

## マランツについて

“Marantz”は 1953 年にソウル・B・マランツ氏が、米国にてプレミアムオーディオ製品の開発・製造・販売をおこなうブランドとして設立。プリアンプ model 7、パワーアンプ model 9 をはじめ市場から名機と賞賛される数々の製品を世に送り出してきました。1982 年には世界初の CD プレーヤー、CD-63 を発売。

今や、マランツはホームエンターテインメント機器のプレミアムブランドとして世界中で認められています。技術は日々進化すると同時に複雑さを増していますが、鋭い感性を持った音楽愛好家達の期待をも超越するという創業以来のソウル・B・マランツの精神は、常にマランツ製品の中に反映されています。

詳細は <https://www.marantz.jp> をご覧下さい。

## 本プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社 ディーアンドエムホールディングス 国内営業本部

お問合せフォーム：<https://req.qubo.jp/soundunited/form/PRinquiries>

※プレスリリースに記載された情報は発表日現在のものです。

※仕様及び外観は改良のため、一部変更させていただくことがあります。

※掲載商品の写真の色は、印刷の関係で多少現物と異なることがあります。